

図書館 だより

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき
 あつ〜い日にはお部屋を涼しくして、ぜひ読書を！
 ヤーコン



新着・お薦め図書

泗水図書館

三の隣は五号室 長嶋 有 著
 ちんぷいぷい 松山 巖 著
 仄かな希望 橋本貞章 著
 僕の違和感 上・下 オルハン・パムク 著
 イラストで見る昭和の消えた仕事図鑑 澤宮 優 著
 きばれ!長崎プランガールズ 藤重佳久、オザワ部長 共著
 あんずの木の下で 小手鞠のい 著
 よるのさかなやさん 穂高順也・山口マオ 文・絵

中央公民館図書室

仇敵 池井戸潤 著
 アシタノユキカタ 小路幸也 著
 我が家の内輪話 三浦朱門、曾野綾子 著
 向田理髪店 奥田英朗 著
 戦火のシンフォニー ひのまどか 著
 ぼくのママはうんてんし おおともやすお 作
 ペネロペとハローキティりんごケーキをつくる アン・グットマン 作

七城公民館図書室

サブマリン 伊坂幸太郎 緒編
 るるぶこどもとあそぼ!九州 '17 高橋香理 作
 あらしをよぶ名探偵 杉山 亮 作
 おばけのてんぱら せなけいこ 作・絵

旭志公民館図書室

掟上今日子の婚姻届 西尾維新 著
 野球守備の教科書 久慈照嘉 著
 も〜お〜うしです! うしのえほんをつくる会 文
 迷いクジラの子守歌 安東みきえ 緒

こんにちは
泗水図書館です!
 泗水図書館は平成9年に開館し、ことし8月で19年目を迎えます。現在、図書約8万5千冊、CD約1,300本、DVD約500本を所蔵しています。館内はバリアフリー構造で段差が無く、車椅子の人でも利用できます。木製の本棚と明るいフロアの図書館で、雑誌コーナーにあるちゃぶ台が、お茶の間のような雰囲気です。8月は夏休み期間として土曜日と日曜日も午後6時まで開館、毎週水曜日は夜間延長で午後7時まで開館しています。おはなし会やイベント・講座など企画していますので、ぜひお越しください。

雑誌コーナーには子どもが遊べるスペースを作っています。

スタッフは7人。エプロンが目印です!

耳より情報

泗水図書館 夏休みイベント

○毎日おはなし会
 期間 ~8月21日(日) 午後2時~
 毎日午後2時からおはなし会があります。
 ○読書マラソン
 期間 ~8月21日(日)
 ○2016サマーコンサート(入場無料)
 と き 8月7日(日) 午後2時~3時
 ピアノとバイオリンのコンサート
 ○利き本クラブ「大人の怖い話」
 と き 8月10日(水) 午後6時~



夏休み工作教室 ~パカパカ動物園~

ことしの工作は旭志公民館図書室で作ってみませんか?
 と き 8月13日(土) 午後1時30分~3時30分
 ところ 旭志公民館図書室
 対象 小学生以上
 定員 10人程度
 持ってくる物 はさみ、のり
 申込期限 8月10日(水)
 ※旭志公民館図書室に電話か直接お申し込みください。



万句の里俳句会 6月句会

空よりも明るき代田水鏡 隈部 輝子
 地震のあと癒えぬまゝなり梅雨に入
 る 加藤 妙子
 河骨の息する如く水面かな 北村 妙子
 清流に星降るごとく舞ふ虫 平山 邦子
 子かまきり威嚇の術をそなへをり 宮本 雅子

せせらぎ俳句会 6月例会

看護師のイメージチェンジ更衣 寺本 和子
 せせらぎに彩を映して四葩かな 五丁 義昭
 月下美人今年は百花咲くつもり 藤本 邦治
 樟脳は昭和の匂ひ更衣 服部 静子
 ちぎり来てすぐ焼き茄子の夕餉かな 藤本アツ子

旭志文芸教室俳句の会 6月詠草

柿わかば集塵場所の風涼し 中尾ヨシコ
 飛行雲城から阿蘇へ五月空 芹川 蓉子
 赤と白芍薬ふわっと咲き始む 水谷 ミネ

水張田に映る白雲船のごと

芹川 のり子

肥後狂句水笑会 6月例会

かたつむり いつも家ごとお引越
 し 宮上 美由
 酔客に ものどん言うとどやさる 井手 水光
 味の良さ 行列待って三時間 柏原 乗仏
 当て外れ お茶とお菓子の披露宴 吉田 沁嗣
 味の良さ 供ゆる前に食べてしもた 山隈 好茶

七城短歌会 6月詠草

こんもりと土盛り上げる菜園のゲリ
 ラの土竜罨に仕留めし 嶋田 晴美
 前庭に激しく鳴ける雨蛙田植え近き
 と我をせかせる 緒方 正俊
 水張りし蓮田に小さき葉の影の何を
 啄む白鷺一羽 高木 精
 買い置きし南瓜の苗はポットの中葉
 茎が黄ばみ大地を恋うる 池田カツ子

「里」短歌会 6月詠草

熊本を激震裏い訊ね行く祖の墓倒れ
 吾はまっくら 松本 和子
 女関の二段をヨイショと掛け上がる 佐々 重弘
 妻にもバリヤフリー遠からぬ 池田カツ子

菊池短歌会 7月詠草

田植後の苗の生長気になりて雨ニモ
 マケズ毎日通ふ 川口 幸臣
 君がわっと驚く顔が見たいから大玉
 すいか抱えて来ました 安藤 則子
 カーテンを透かす初夏の陽縁側にレ
 ースの模様しるく写せり 岩永 典子

さわやか大学文芸クラブ6月歌会

窓越しに地震に弱りし城見れば傷あ
 と深く涙止まらず 堤 よしみ
 今もなお余震あるなか次はまた大雨
 避難の呼びかけ続く 田中 遙子
 朝庭に零れ実突く小雀よ夫の魂かと
 餌まきてをり 岩木タエ子
 剪定の腰を下ろせば飛行機の梅雨間
 の陽を浴み影を落とすしぬ 川口 敦子
 E.U.の報道世界を揺るがせて吾ら民
 人混乱の中 山城 雅子

今宵また暴風雨で眠られぬ壊れたま
 まの屋根の真下で 緒方 悦子
 梅雨の間の紫陽花の花清々し静かに
 向かう穏やかな日に 桑野 睦子
 梅雨の日の夕日は白く光りいて重な
 る雲は銀のかがやき 江頭 桂子
 歩をとめて見入れれば星の瞬きの数か
 ぎりなく闇に増しゆく 宮本 淑子

文芸 きくち

ここからは魔界と宣告することく
 「この先キケン」と標識立てり
 古賀 勝士
 夕焼けの雲がほめて空ひくく啼き
 渡りゆく初ほととぎす
 中川 愛子